様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	8	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校 長 名	青木　暁乃

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	生徒の自主的な行動につなげる防災教育の取組	①在宅時、通学途上も含め、発災時に自分で判断して行動したいと答える生徒 80%以上 ②在宅時、通学途上も含め、発災時の避難行動等について、家族内で確認したり、防災意識をもつようになった保護者 80%以上 ③在宅時、通学途上も含め、発災時の具体的な行動力に結びつける防災教育を行なっている教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85% ②保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 78% ③教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・発災時における家庭や地域での対応にまで学習機会を広げることができた。 ・災害に対して体験的に自分事として取り組める授業がなされている。 ・３年間の積み上げにより防災ハンドブックが完成することも良い。 ・生徒の学習をより実践に活かせるよう、保護者や田農と連携した訓練を計画・実施したい。
安全	生徒の意思表出や行動力につなげる自尊感情を高めるための生徒指導や人権教育の取組	①②「自分の良さが分かり、自分の意見や考えをもって行動する力がついてきた。」と答える生徒と保護者 80%以上 ③生徒への働きかけの前に、「あなたはどう思う？」を意識してやりとりをしている教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 73% ②保護者アンケートにおいて「できた」と回答した保護者 100% ③教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・先ずは生徒の話を聞くことを心掛けた。学習以外でも良い部分を褒め、普段から生徒との関係作りが浸透しつつある。 ・気になる生徒についても、学年を超えて情報交換をしたり指導したりしたい。 ・生徒に寄り添いつつ、成長をサポートしていくことのできる教師集団であり続けたい。 ・今後は、心理的安定を図るための関わり方の徹底を図りたい。 ・誰もが快適な分かりやすい学校を目指し、言葉掛けや掲示物などの情報を整理したり、デジタルデータの管理も行いたい。

様式第３号

安全	道徳教育全体計画に沿った道徳教育の実践	①特別な教科「道徳」での学びを生活の中で生かしていこうとする生徒 80%以上 ②特別な教科「道徳」での学習評価を生徒理解に生かしている教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 80% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 82%	A	・昨年度から引き続き、勉強会を開催し、道徳の捉え方や評価の仕方などを学ぶことができた。 ・授業は今年からなのでまだ試行錯誤の段階だと思われる。 ・ICT を活用して、生徒の本音にせまったり意見を拾い上げたりして、リアリティのある等身大の学びができている。
安全	生徒が心や体の健康等の自己管理能力の向上を図る指導への取組	①「保健指導」や「性の指導」等で学んだことを、生活の中で生かしていこうと考える生徒 80%以上 ②生活の中で生かす力につなげる視点から、「保健指導」や「性の指導」等を実践した教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 85% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 79%	B	・養護教諭の協力により、指導が充実した。家庭や地域生活にも返していきたい。 ・性の多様性を大切にし、多様な視点からの性教育を行いたい。性犯罪などに巻き込まれないよう定期的に指導したい。 ・性や生理、清潔、などの指導の必要性を強く感じる。年間計画を活かした取り組みができると良い。 ・懇談会などを活用した家庭への情報提供を行いたい。 ・福祉・行政等の協力を得ながらの安全指導にも広げたい。
専門	学びの価値や成長を実感できる授業研究や公開研究会の実施	①学び、考えることが楽しいと答える生徒 80%以上 ②生徒の考える姿を引き出す授業力を高めたと感じる教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・研修を通して生徒主体の授業作りを学ぶことができた。更に教育課程全般で、考える姿を求めていきたい。 ・生徒が成果を出すまでじっくり待つ姿勢も大切にしていきたい。 ・作業学習では、一日通して働く経験を積めるように、週に1日や月に２回程度、終日作業学習の日があっても良い。教育課程を再考したい。 ・地域に出やすい作業学習の整備を進めていきたい。

様式第３号

専門	３年間を見通した計画の中で、学習評価を生かした作業学習と職業科の実践	①作業学習や職業等、学校で身に付けた力を職場実習で発揮していると答える生徒 80%以上 ②「就労しながら豊かに生活する将来の姿」を見据えた目標を設定し、働きかけや学びのフィードバックについての支援を意識している教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 93% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・進路指導課が各学年の意向に寄り添い、丁寧な対応をしている。卒業後の生活をイメージして、本人を含め家庭の協力を得ながら進路指導を進めていきたい。 ・状況が許せば、職業やその他教科でも縦割りの学習の機会を増やしたい。教えたり教えられたり、生徒の学びが多いと考える。 ・１日を通して作業学習を実施する日があると良い。 ・保護者への進路情報提供を充実させ、本人や家庭がより主体的に進路選択ができるようにしたい。
専門	授業で活用できるアプリ等の紹介とＩＣＴを活用した授業の実践とその発信	①②自らの情報活用能力が向上したと答える生徒及び教員 80%以上 ・教育実践全般の成果について、ＨＰ等での発信、各教員年１回以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 90% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・各種儀式や集会、通常授業において ICT 機器を活用した。 ・導入した機器やアプリの最大限の活用がなされている。 ・アプリ・プロジェクターと板書を併用するなど、デジタルとアナログを併せて活用ができた。 ・機器が増えた分、セキュリティをしっかり守るように周知徹底をしていきたい。
連携	田農との共同授業、交流授業等の計画的な実践とその成果の情報発信	①田方農業高校との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上 ②将来につながるコミュニケーション力の育成の場として、田農生との共生・共育の良さを生かす働きかけをしている教員 80%以上	①生徒アンケートにおいて「できた」と回答した生徒 88% ②教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・地域にもっと出ていく活動があるとよい。生徒同士がもう少し自分たちで交流を進めていけると、より良いと考える。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・製品の在庫がある時や野菜が豊富に収穫できた時など、臨時で販売できる機会を設けていけるとよい。(田農や伊豆仁田駅等) ・地域の人材バンクも活用していけると良い。 ・地域の行事やお祭りなどに参加し、作業製品の販売がもう少しできると良い。 ・今後も地域資源や外部組織との協働活動を充実させたい。

様式第３号

連携	的確な進路等の個別の支援のために必要な、ケース会議、移行支援会議の実施。そのための関係機関、地域人材の活用と工夫	・必要性のある生徒に対するケース会議等の実施等 100% ①校内（保護者を含む）外の人材活用や連携によって得られた情報が、教育活動に生かされていると感じる教員 80%以上	①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	B	・生徒指導案件など、個別に対応がなされている。予期しない問題に後手に回ることもあるが、対応は丁寧で徹底的に行われている。 ・出身中学校や保護者、地区行政等との情報共有と予防的指導を充実させていきたい。
連携	伊豆の国特別支援学校と連携した地域支援についての体制づくり	・伊豆の国特別支援学校との情報連絡会　年２回 ・地区（小・中・高）の特別支援教育の体制づくりに向けた発信　年５回		A	・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会義など、必要な時期に十分な情報共有ができた。
連携	福祉教育を窓口とした函南町との連携の強化	・函南町等、地域との共同活動や情報発信（函南町役場やゲートウェイとの連携）年 12 回以上		A	・必要に応じて保護者や福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。
チーム	必要な情報共有や効率化につながる業務改善の仕組みを」「働きがい」につなげる取組	①掲示板の活用等で必要な情報提供を図ったり、共有のために自ら情報収集を図ったりしている教員 80%以上 ①教材等データや業務に関わるノウハウを共有することで、業務の改善につなげたと感じる教員 80%以上	①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・掲示板や COCOO を活用し、印刷や配布、回収、集計の時間や手間が改善した。紛失やタイムラグがないことも良い。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され情報が集まった。データ活用が進んだ。 ・サーバー内の教材庫の活用をしたい。授業案や教材、資料を整理すると学年の縦のつながりもできるのではないか。 ・出席簿と取得単位表とをリンクさせるなど、データ処理システムの改善が進んだ。 ・初任者研修では、教職員がそれぞれの専門知識を生かした研修を企画し、学び合えた。 ・PTA 活動も視野に入れデジタル情報の更なる活用を探る。 ・教材研究や生徒の情報共有に充てる時間の捻出と有効活用を図りたい。
チーム	学校経営計画に基づいた予算計画や予算執行を本校事務等と適切に情報共有しながら進める	①本校事務との連携が図れていると感じる教員 80%以上 ・本校事務からの直接情報提供の場　年６回以上	①教員アンケートにおいて「できた」と回答した教員 100%	A	・本校事務室は、限られた予算の中で分校職員の意向を大切に最大限の対応をしている。 ・校外学習費用やコロナ対策での購入品をはじめ本校事務室とその都度相談をしながら適切な予算執行に努めている。